

集団の中で自信をもって、のびのびと行動する子

出 脇 典 子

はじめに

M子は小学校時代、友だちとの関わりがうまくいかなかったことがきっかけとなって、登校拒否傾向を示すようになった。昨年度本校に入学してからは、教師集団の受容的態度に支えられながら経験を拡大していく楽しさや認められる喜びを通して、友だちとの関わりを少しずつ広げ、楽しんで登校するようになった。本年度はさらに経験を重ね、学部集団の中で自信をもって、生き生きと行動する姿がたくさん認められるようになってきた。

以下、M子がいろいろな活動にすすんで取り組み、学級や学部を広げた集団の中で、自信をもって意欲的に行動するようになった経過を述べてみたい。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和53年3月2日生 13歳8か月 中学部2年生 女子
- ・2年保育の後、市内S小学校普通学級に入学する。2年より心障児学級に入るが、4年の時友だち関係につまづき、普通学級にかわる。しかしここでもうまくいかず、登校をいやがり出す。この頃より卒業まで、母親が登下校に付き添う。5年で再び心障児学級に入り徐々に安定してくるが、学級集団以外の集団には、決して参加しようとしめない状態が続く。本校中学部に入学後は、1人でバス通学をし、少しずつ関わる集団の枠を広げながら現在に至る。

- ・家族は両親と妹(小6)の4人。

(2) 諸検査による実態

- ・知能検査ではIQ 60(鈴木ビネー)を示す。
- ・からだの輪郭表(図1)から、経験を拡大することによりできることがふえてきていることがわかる。特に道具の操作の伸びが顕著である。
- ・性格診断プロフィール(129頁図3)から、不安、不適応傾向が強いことがわかる。

(3) 行動特性

- ・緊張しやすく、高じると悪態や暴言で必死に自分の殻を守ろうとする。学校生活に慣れて、極度に緊張することがなくなり、言動に明るさや穏やかさができてきた。
- ・服装へのこだわりが強く、制服を着て通学することができない。

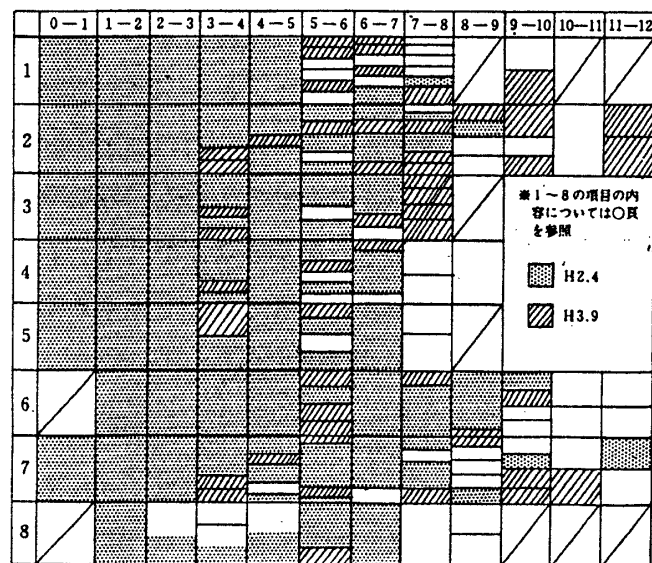


図1 からだの輪郭表

・同じ学部内の友だちに対して思いやりを示したり、逆に命令的態度をとったりするなど、自ら友だち関係をつくろうとしだした。級友のY子に対しては、従属して友だち関係を保とうとする。

2 取り組みの構想

(1) 指導仮説

これまで遊びや運動経験が不足しているM子は、身体の諸機能が未発達で、身のこなしになめらかさが無い。また身体を力いっぱい動かして、1つのことを最後までやりとげる満足感をあまり味わっていないため、すすんでいろいろな活動に取り組もうとする意欲的な態度にも欠ける。そこで身体を力いっぱい動かすことによって、諸機能の分化を図り、身体を作っていく。自分の身体を使って未経験の道具を使ったり、友だちと一緒に活動したりする楽しさを味わっていくことは、さらなる活動意欲を高めることにつながる。



真剣にミシンを踏むM子

また成就感や成功体験を重ねることで自信ができてくる。このような考え方で昨年度も取り組み、体力面でも意欲面でも向上していることが認められた。今年度は取り組む課題を少し難かしくしたり、いろいろな人と関わる場面を多く設けるなどによって、少々の困難なら自ら乗り越えていこうとする精神的なたくましさも、育てていきたいと考えている。

(2) 指導方針

- ・1日の生活に見通しをもたせ、落ち着いた気分で自主的に生活させる。
- ・遊びや運動にどんどん取り組ませ、楽しい経験をたくさんさせる。
- ・少しずつ難かしい課題を与えたり、苦手な活動にも取り組ませたりして、たくましさを育てる。

3 指導の実際

(1) 生活単元学習への取り組み

① 「野外炊飯」の実践

表1 「野外炊飯」への取り組み

題材	取り組みの様子	要因手だて
お好み焼き作り	・材料をどんどん切ってボールに入れ、粉と混ぜる。指示を待たず自分で作業をすすめる。フライパンの上の具を必死で裏返そうとするが、くずれてうまく返らない。「何でだ」「どうするだ」と言いつつ、何度も挑戦。	・新しい題材 ・補助をしない
ランチマット作り	・ていねいに一本ずつ短冊カードを通していく。配色にも気を配り、自分で慎重に選ぶ。完成すると担任に「見て」と示し、うれしそうに笑う。	・きれいな見本の提示
テントを作ろう	・ミシンを使うことを喜ぶ。曲線になるとスピードをゆるめ、慎重に動かす。しつけ糸を意識し、ほとんどそれずに縫う。真剣な目。集中している。支柱を通したテントを自分で中庭に立て、「気に入った」と連発。	・ミシンを使う
野外炊飯に出かけよう	・賀露公民館ではじめての炊飯をする。お好み焼きを焼くとすぐ、すすんでテーブルのセッティングに取り組む。8人分の準備を黙々と、ほとんど1人でやり終える。自分で見通しをもっており、動きがよい。	・任せきる

野外炊飯の日M子は段どりよくお好み焼きを焼くと、遅れている級友2人を待つ間にテーブルのセッティングを1人でしてしまった。初めての炊飯会場であるにもかかわらず、落ち着いて黙々と手を動かしている姿に、クラスのリーダーとしての自覚と自信が育ってきていることを感じた。またランチマット作りやテント作りでは、見本をまねて少しでもよいものを作ろうとし、時間をかけてじっくりと仕上げていった。自分にもできるという自信が、自ら高い目標に向かっていこうとする意欲を生みだしているように思われる。

② 「臨海学校」の実践

表2 「臨海学校」への取り組み

題材名	取り組みの様子	手だて
土俵づくり	・砂の感触を楽しみ、一体となって遊ぶ。土俵づくりをしていることを忘れていたのではないと思われる程、砂と自由に戯れている。友だちや先生をまね、板されを使って砂をならす。	・教師も一緒になって遊び、雰囲気づくりをする。
船づくり	・見取り図を書き、金づち、のこぎり、糸のこなどを使って、少しでも見取り図に近い形の船を作ろうと工夫する。担任のアドバイスより自分の思いを大切に、装飾用の部品をどんどん作っていく。勢いがある。	・「思い通りに作ればよい」という自由さを与える。
まきづくり	・やや薄めの板を壁に立てかけ、足で中央を踏んで折る。たわんで折れにくいのを粘って踏む。井型にいっぱいになるまでという目標をよく自覚し、どんどん新しい板を運んできて折る。私語は全くない。	・一緒に作るという仲間意識と承認の声かけ。
外食	・昨年の経験を生かし、900円の外食費で、とても上手にメニューを決める。レストランでは、自分ではきはきとメニューを注文し、支払いもした。	・「自分で」と励ます。



M子は自然の家の入所式のあいさつを、学部代表としてすることになった。人前では極度に緊張し、早口でごまかしてしまう傾向をもつ。そこで、あいさつのことばをあまり長くせず、繰り返し練習して入所式に臨んだ。M子はきはきした声で堂々とあいさつし、大きな拍手をもらった。臨海学校への期待やそれまでの成功体験の積み重ねが、M子が最も苦手とする人前での発表に、意欲的に取り組ませたものと思われる。これ以後、発表するM子の表情が少しやわらかくなり、最後まできちんと言おうとしだした。

(2) 運動への取り組み

小学校時代のM子は遊びや運動で身体を思いきり動かし、エネルギーを発散させるという経験が、非常に少ない。入学当初のM子は、ボールを使ったゲームに加われなかったり、腕の力が弱いため手押し車が全くできないなど、未発達未分化な面を多く露呈した。しかし図2にも表われているように、生活単元学習での遊び的労働への取り組みをはじめ、リズム・サーキット運動への継続的取り組み、個別配慮をした体育への意欲的取り組みにより、M子の身体が少しずつたくましさを加え、使いこなせる身体に変わってきていることがわかる。

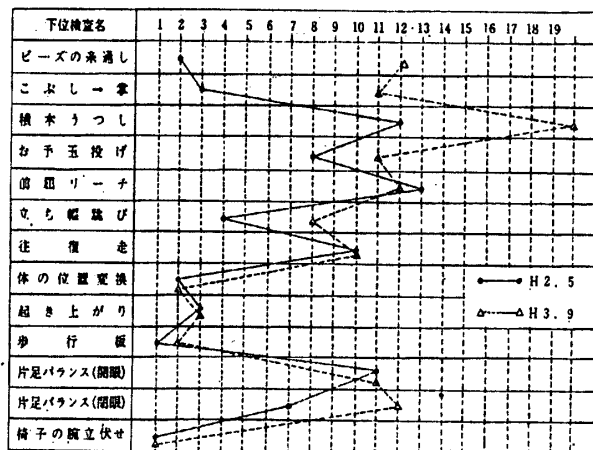


図2 MSTB評価プロフィール

M子は本年度、これらのからだややる気をもとに意欲的に水泳に取り組み、めざましい上達ぶりを示した。その取り組みの経過のあらましをまとめると、次の表のようになる。

表3 水泳への取り組み

時期	水泳の実態	手だて
H2年7月	<ul style="list-style-type: none"> もぐったり水をかけ合ったりして楽しむ。面かぶりばた足で3メートル泳ぐ。息つきはできない。ビート板を持ち20メートルを泳ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由に水に親しませる。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 1班に所属している友だちをうらやましがり、どうしたら自分も1班に入れるかと問う。水遊びが中心で、泳ぐ練習はしようとしなない。 	<ul style="list-style-type: none"> 泳げるようになりたいねと誘う。
H3年7月	<ul style="list-style-type: none"> 担任の肩につかまり、ばた足をしながら、顔をつけたりあげたりして息つきの感じをつかむ。面かぶりで犬かきに近いクロールで泳ごうとします。「足をつかずに20m泳ぐ」という担任がたてた目標を自覚し、すすんで練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標を与え、頑張ればできると励まし続ける。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 息つきをしながら犬かきに近いクロールで7m泳ぐ。次は10m、12m、16mと次々距離をのばし、9月6日には、足つき1回で20mを泳ぎ、しかもタイムは39秒というすばらしい記録を出す。泳法を身につけた上での泳ぎでないため身体全体に力が入り、20m泳いだあとはぐったりしてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> タイムを計る。教官全員が応援する。 一緒に遊ぶ。

泳げるグループに入りたいというM子の願いを目標として設定し、「えらいけど、頑張って練習したら泳げるようになる」と励まし続けた。少しの上達もみののがさず中学部全教官が賞賛したことも、M子には大きな励みとなった。「プールおさめ」の日には、大勢のお母さんや先生、そして高等部の生徒の前で力いっぱい泳ぎ、練習の成果を堂々と発表した。M子は、「3年になったら、足をつかずに泳ぐ」と、来年のプール学習の目標を自分で設定するほどの意欲をみせている。



力泳するM子

4 考察と今後の課題

図3の性格診断プロフィール（検査者は母親）でみると、自立的傾向と社会性の広がりが見られ、個人的にも社会的にも安定傾向に向かって伸びていることがわかる。しかし顕示性や攻撃・衝動的傾向は依然として強く、これは、制服へのこだわりがほとんど緩和されていないことにもあらわれている。

今後も経験の拡大、成就体験を積み重ねることにより、さらなる活動意欲を高めたい。その過程の中で精神的なたくま

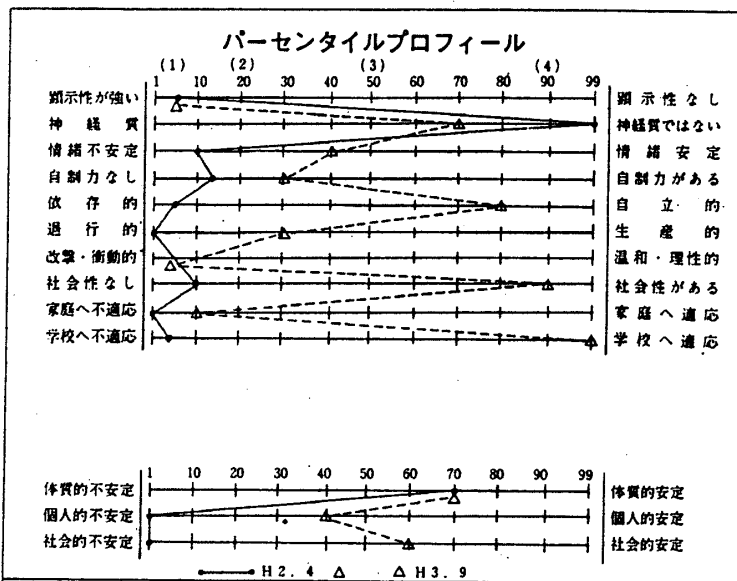


図3 性格診断検査プロフィール

しさが培われ、いろいろなものを受け入れる心の余裕、豊かさが育つものと考えられる。